



きらきら☆いわてっこ ～「挑戦」を生み出す 人とのかかわり～

4歳児がホールでこま回しにチャレンジ中。ひねりごま、手もみごま、糸ひきごま、投げごまと様々なコマが準備してあり、子どもたちはそれぞれ選んで『こまたつじん』を目指していました。

そこへ1歳児のA児がやってきて、真剣なまなざしでこま回しの様子を見ていました。4歳児のB児が「A児ちゃん、こましたいの？」と声をかけて、手もみごまをやって見せました。「やってみる？」とこまを渡しましたが、A児はそばにあったひもを手にとると手もみごまにかけようとしていました。保育者が気づき「A児ちゃん投げごましたいんだね。一緒にやってみようか」と声をかけ、一緒に投げごまにチャレンジしました。何度目かにタイミングが合いこまが見事に回ると、A児は回り続けるこまにぴったりとくっついて見入っていました。周りにいた4歳児は「A児ちゃんすごい！」「よかったね～」と自分のことのように大喜びしていました。

その様子を見ていたD児とG児が「だって先生に手伝ってもらったからでしょ」と言う保育者は「A児ちゃんすごかったよ。ひもは難しかったけどすごい一生懸命で、回すときなんかちょっと手を添えたくらいだったよ。」と伝えました。するとD児とG児は「え～A児ちゃんすごいじゃん」「負けてられないな」「やるか！」「うん！先生見てて～」と再びチャレンジし始めました。



E児「みてみて」

コツをつかみ簡単に回せるようになったE児はバケツをさかさまにしたステージの上でも華麗に回して見せてくれました。「さくらさん(5歳児)はもっとすごいんだよ！」と目を輝かせ話していました。

達成感が次への意欲につながります。

異年齢での関わりの中から、憧れの気持ちが芽生え目標にしています。



D児「親指でここをおさえるといいんだよ」

G児「離すときに、ちょっと遠くに向かって飛ばすと回るんだよな」

C児「ちょっと待っていて、一緒に回すから長く回ったら勝ちね」

こま回しは個人競技ですが、友達と一緒にだともっともっと楽しくなります。

自分が経験の中から得た学びを、友達との対話の中で共有し合い、さらに深い経験(学び)にしていけます。

同じ遊びの場においても、思いや興味・関心はそれぞれ違っていることがあります。保育者は子どもの目線に立つてものを見つめたり、同じものに向かってみたりして、子どもの心の動きや行動を理解することが大切です。一人一人の思いや発達に応じた適切な援助が、子どもたちの意欲につながったり、友達とのつながりを作っていくたりします。

『自分でできる』を支えます



幼児期の終わりまでに
育てほしい姿

(1) 健康な心と体
(2) 自立心
(3) 協同性
(4) 道徳性・規範意識の芽生え
(5) 社会生活との関わり
(6) 思考力の芽生え
(7) 自然との関わり・生命尊重
(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9) 言葉による伝わり合い
(10) 豊かな感性と表現



幼稚園や保育所、こども園では、基本的な生活習慣が身に付くよう、食事、衣服の着脱、清潔、排泄、睡眠などについて支援を繰り返し行っています。



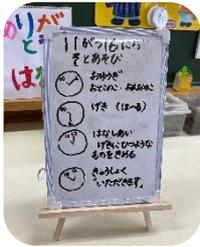
満1歳を過ぎると運動機能や指先の機能が発達し、食事や衣服の着脱、靴を履くことなどに対しても、自分でやってみようとする気持ちが生まれます。自分でやろうとしている姿を目にしたときは、すぐに手を貸さずに、温かく見守りましょう。やり遂げたときには、「できたね」「よかったね」と優しく声をかけて心地よさや満足感を味わえるようにします。保育者の優しい声掛けと共感的なまなざしが、次への意欲にもつながります。

『見通しをもって行動する』を支えます

年長の後半になると、「食事前に手を洗う」「活動前にトイレを済ませる」「〇時からはホールでドッジボールをするから、それまでに遊んだものを片付ける」など、子どもが自ら見通しをもったり必要性を感じたりして行動するようになります。子どもの自主的な姿を認めていくことで、自信をもって行動できるようになり、自立心が育ちます。保育者は見通しがもてるような環境作りにも心がけていきましょう。

今回のテーマは、主にこの育ちにつながっていきます。

声をかけるだけではなく可視化しておく、戻ってきて確かめたり、友達同士で見確認め合ったりできて効果的です。



【信頼をつなぐ保護者対応へ】



ワンポイント
アドバイス

● 保護者の不安

保護者 「今度保育園で面談があるんですけど、先生は私たちにどんな話をするのでしょうか。」
 専門員 「面談のご案内に内容が書いてありませんでしたか？」
 保護者 「詳しいことは書いてなくて…保育園の玄関に一覧表があり、【面談をしますので都合が悪い場合はお知らせください】と書いてあったのでした。何を言われるのかと不安になってしまって…」

● より相手意識をもって

きっと今の時期だと、進級・進学に向けて基本的生活の見直しのお話や、通学路を一緒に歩いて危険個所の確認をしておくことや子どもだけでなく保護者のみなさんに必要な物や心の準備についてのお話などが面談の内容でしょうか。

この事例から、保護者の中には先が見えず不安になる方がいらっしゃるのことがわかりますね。せっかく信頼関係を作るための面談なのに、不安にさせては逆効果になりかねません。ひとこと「進級・進学に向けての面談です。一緒にお子さんのことを考えてみる機会にしましょう。」と書くだけで、ドキドキする面談がわくわくする面談になるのではないかと思います。ちょっとした配慮が大きな信頼へとつながります。より相手意識をもった保護者対応を心がけてみましょう。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。